

8. 森の科学館および野外展示概要（平成25年3月末現在）

科学館1階

種 類	内 容
展 示 物	◎タネの引き出し ◎昆虫採集用トラップ ◎ムササビの食痕 ◎土壌動物とその働き ◎鳥や動物のフンから出てきた植物の種子 ◎大正時代・海外のサクラの文献
パソコン図鑑	◎サクラ情報検索システム
映 像 装 置	◎ムササビの親子 ◎大型ディスプレイ4台（樹木、昆虫、動物、環境教育各コーナー1台）
標 本	◎スギの古木 ◎ダグラスファーの巨木 ◎モミの年輪板 ◎ヒノキの年輪板 ◎材鑑：5種類 ◎腊葉標本：5種類 ◎球果標本：14種類 ◎サクラの花のアクリル標本 ◎カマキリ他昆虫の標本：121種類 ◎キノコの標本：16種類 ◎両生類・爬虫類の液浸標本：14種類 剥製 ◎アナグマ ◎タヌキ ◎ニホンノウサギ ◎ニホンリス ◎アカネズミ ◎イエコウモリ ◎アライグマ ◎アズマモグラ ◎テン ◎イノシシ ◎ムササビ ◎ツキノワグマ ◎ハクビシン ◎イタチ ◎ソウシチョウ ◎ガビチョウ ◎アオバト ◎カワセミ：2体 ◎カルガモ：2体 ◎クロジ ◎キビタキ ◎シジュウカラ ◎トラツグミ
写 真	◎航空写真
解説パネル	ようこそ 多摩の森へ ◎日本の森林帯 ◎自然林・二次林・人工林 ◎人の利用と森林 ◎多摩の都市近郊 ◎多摩の植物 ◎植物の標本 ◎科学園のキノコ ◎土壌動物とその働き ◎昆虫調査用トラップ ◎科学園の昆虫相 ◎科学園のチョウ ◎多摩森林科学園 森と人のはざままで ◎動物に運ばれるタネ ◎木質ペレット ようこそ サクラ保存林へ ◎サクラとは ◎野生のサクラ ◎サクラの栽培品種の成り立ち ◎最古の栽培品種 ◎江戸時代の桜 ◎明治・大正時代の桜 ー荒川堤ー ◎昭和時代以降の桜 ◎はるか ◎サクラの樹皮と樺細工 ◎東北・夢の桜街道 ～八十八カ所巡り～ ◎サクラの栽培品種 その1 伝統を正しく引き継いで、未来に ◎その2 良好な例：名前と遺伝子型が一致 ◎その3 1つの名前の中にいくつもの遺伝子型！？

種 類	内 容
	◎その4 別の名前なのに遺伝子型が同じ！？ ◎新しいサクラの看板、読み方のコツ ◎サクラ保存林の役割 ◎気候変動とサクラの開花 ◎さまざまなサクラの開花期 ◎森林総合研究所の桜前線速報◎フェロモンを使ってサクラの害虫退治 ◎サクラの病害（てんぐ巣病） ◎サクラの病害（幼果菌核病） ◎サクラの病害（腐朽病害） ◎サクラの病害（増生病）
図 書 コ ー ナ	◎森林・林業関係図書：約140冊

科学館2階

種 類	内 容
展 示 物	森林の学校（森林環境教育） ◎樹木を学ぶ教材 ◎樹木を測る道具 ◎フォレスターに挑戦 ◎建物に使われる木材 ◎さまざまな木製品① ◎さまざまな木製品② ◎森林の職員室 ◎40活動本
映 像 装 置	◎多摩森林科学園紹介ビデオ
解説パネル	◎ようこそ森林の学校へ ◎1時間目 樹木をとらえる ◎2時間目 樹木を測る ◎3時間目 木材を収穫する ◎4時間目 木の建物 ◎5時間目 木材のつくり ◎6時間目 木製品 ◎森林の職員室－森林で学びを支援する指導者のために－ ◎森林の職員室－教材－ －森林での学びを支援する指導者のために－ ◎森林を考える森林教育 ◎森林を伝えるテーマ・内容 ◎森林を教える活動の種類 ◎森林を教える活動事例
展 示 物	樹木園・サクラ保存林におけるフィールド展示・フィールドサイン ◎フンや食痕でわかる動物 ◎足あとでわかる動物
標 本	◎虫こぶ（虫えい）と昆虫の食痕 ◎科学園で見られる野鳥の剥製 ◎カワラヒワ ◎ジョウビタキ ◎コゲラ ◎カワセミ ◎シメ ◎イカル ◎ツグミ キジバト
解説パネル	◎私はだれでしょう？ ◎テーマ別樹木園ガイド ◎こん虫スポット ◎むしこぶと食痕 ◎野鳥観察ポイント ◎科学園で見られる主な野鳥

種 類	内 容
展 示 物	◎アニマルトラッキング 森林総合研究所（つくば市）の研究 ◎いろいろな木質材料 ◎バイオエタノールができるまで ◎木材から新素材を作る ◎いろいろな木材の重さ ◎はたらく林業機械 ◎国ごと Co2排出量比較 ◎木から出る音
映 像 装 置	◎人工土石流実験 ◎はたらく林業機械
解説パネル	◎木材で大きな建物をつくる ◎いろいろな木質材料 ◎木材からバイオエタノールを作る ◎木材から新素材を作る ◎生産物：木材を使う ◎世界一重い木、軽い木 ◎水に浮く木、沈む木 ◎林業機械の「むかし」と「いま」 ◎スギの花粉をなくす ◎森と木を活かして地球温暖化を防ぐ ◎木を余すことなく使って地球温暖化防止 ◎森の恵み 国土と水を守る ◎木から出る音

野外展示の概要

種 類	内 容
野鳥観察ポイント	49 p 参照
樹木解説版	50 p 参照
こんちゅうスポット	園内に約 50 箇所の解説版
ムササビスポット	園内に約 20 箇所の解説版。ガイドマップを森の科学館で配布
私はだれでしょう	第2樹木園内に10箇所の解説版。ガイドマップを森の科学館で配布
サクラ表示板	サクラ保存林内に約150箇所の表示板。ガイドマップを森の科学館で配布

科学館展示の一部リニューアル
2階「森林（もり）の学校」

年末年始の休園期間中に科学館展示の一部をリニューアルし、2階に「森林（もり）の学校」のコーナーを新設しました。



「森林の学校」は、森林について学ぶ活動を指導している指導者のために、さまざまな森林教育の方法や教材、実践事例を紹介しています。展示は、らせん階段を上った地点から、右側は、森林教育全体について紹介する「森林を教える・森林教育」、左側は、学習プログラムを個別に紹介する「森林の学校」になっています。

「森林の学校」の展示内容は、次の通りです。※【 】：パネル名

1. 「森林を教える・森林教育」（右側）

【森林を教える・森林教育】森林には幅広いテーマや内容があり、森林でのさまざまな活動を通じて、森林を教える森林教育が行われています。

【森林を教えるテーマ・内容】森林を教える活動について研究した結果、「自然環境」、「ふれあい」、「森林資源」、「地域文化」の内容があることがわかりました。自然体験や生活体験が不足がちなわたしたちに、生きる力を与えてくれます。

【森林を教える活動の種類】森林体験活動の実態調査から、13分類 40種類あることが明らかになりました。森林教育は、活動を通じて、自然とのかかわりを学ぶふれあい、自然からの恩恵を学ぶ森林資源、自然へのまなごしを学ぶ自然環境から、さらに地域文化につながる総合的な学習の展開が可能です。40種の活動は、巨大大で紹介しています。

【森林を教える活動事例】森林を教える森林体験学習には、学年や目的に応じた様々な自然体験活動や生活体験活動があり、知識だけではなく、子どもたちの人間性や社会性などを育みます。このコーナーではスライドショーを用いて活動事例を紹介しています。

2. 森林の学校（左側）

【ようこそ、森林の学校へ！】

多摩森林科学園で開発した学習プログラムを紹介し、体験できるようになっています。

【1時間目 樹木をとらえる】樹木の葉、幹、形が学べるように工夫した教材紹介。

【2時間目 樹木を測る】樹木を測る測竿、輪尺を紹介し、測れるようになっています。

【3時間目 木材を収穫する】森林の育て方を紹介し、チェーンソーに触れます。

【4時間目 木の建物】科学館の建物への木の使い方を紹介し、部材と樹種がわかります。

【5時間目 木材のつくり】木の構造を学ぶ木材組織のサイコロ教材を紹介しています。

【6時間目 木製品】さまざまな材で作られている木製品に触れ、材の違いがわかります。

【森林の職員室】学習活動に利用できるワークシートなどを紹介しています。

（大石康彦）

野外展示：野鳥観察ポイント

2011年2月に野鳥観察ポイントの看板を公開区域に7か所設置しました（写真1）。林縁、草地、ヤブ、水場など、とくに野鳥を観察しやすい特徴的な環境を選び、そこでよくみられる鳥の写真を表示しています。また、2012年5月にはリーフレット「多摩森林科学園の野鳥ガイド」を作成し、希望者に配布しています（写真2）。園内で季節ごとにみられる約60種の鳥のリスト、その見つけ方など、初心者を対象とした内容で構成されており、科学園を散策しながら野鳥観察をはじめる来園者に利用されています。（林典子）



写真1



写真2

野外展示：樹木園観察ガイド

24年8月に、園内の第1、第2樹木園に新しい樹木解説板を46カ所設置しました。森の中で違和感がないよう配色を考え、解説に合わせてわかりやすく写真も入れました。解説板を設置する木を選ぶ際には、「日本の森林を代表する樹木」、「さまざまな目的で人の役に立つ樹木」、「多摩地域で身近な樹木」、という3つのテーマで樹種を選び、指定したコースを回りながら観察できるようにしました。「日本の森林を代表する樹木」は、日本の森林植生を代表する主要な樹種を見ながらまわります。「人の役に立つ樹木」は、木材、燃料、造園など、さまざまな目的で利用される樹種を見ながらまわります。「多摩地域で身近な樹木」は、私たちに身近な多摩地域や高尾山周辺などでよく見られる樹種を見ながらまわります。



解説板を作成するにあたって、研究機関である多摩森林科学園では、新しい分類体系を積極的に用いて発信していこうと考え、新設した解説板では、2003年に発表されたDNAの情報をもとにした分類体系である、「APG II」（被子植物系統研究グループ（APG）による分類体系、改訂版）を使っています。

25年2月には、これら解説板をめぐるテーマ別ガイドマップを作りました。ガイドにのっている樹種は、木の近くに解説板があります。これらのガイドを手に、樹木園をまわりながらテーマに沿って観察ができるようになっています。



今後は、シダ植物(24年度から一部設置開始)、草本類なども含め、サクラ保存林や第3樹木園まで含めて、より簡易な解説板を設置する予定です。

(島田和則)



森林総合研究所

多摩森林科学園

高尾駅から徒歩10分

森の科学館 樹木園



企画展

「世界自然遺産小笠原諸島の
森林生態系をまもる」

2012年7月10日(火)～12月2日(日)

企画展示 世界自然遺産小笠原諸島の生態系保全と外来種問題

森林総合研究所では20年以上にわたって、小笠原の森林生態系や外来種の研究を続けてきました。その成果の一端をわかりやすく紹介します。

写真展 研究者の見た小笠原諸島

森林総合研究所の研究員が見た小笠原諸島の様々な素顔を写真で紹介します。

特別講演

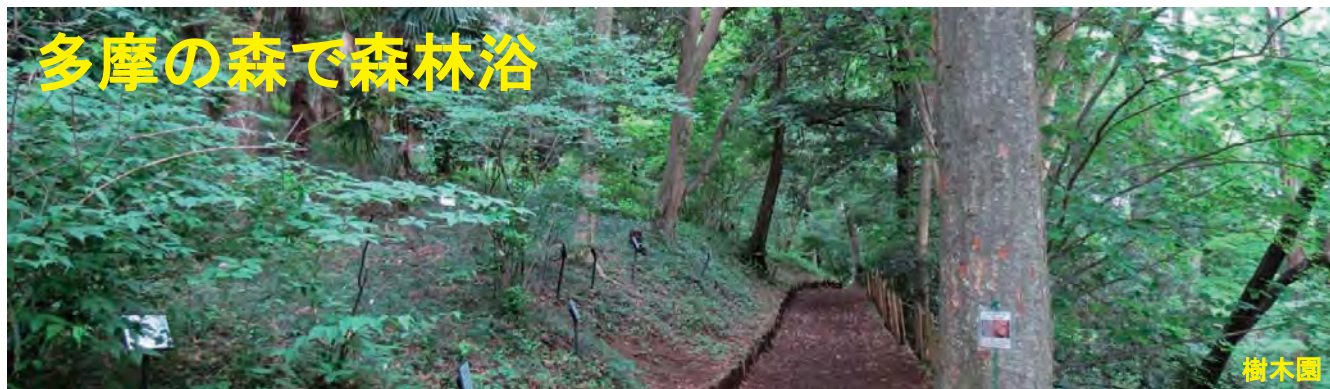
8月10日(金) 牧野俊一(森林総合研究所・研究コーディネータ)

生態系保全のために外来のクマネズミを根絶する -その苦労と絶大な効果-

10月27日(土) 川上和人(森林総合研究所・主任研究員)

鳥と、進化と、絶滅と -小笠原の生物のステキ-

※特別講演の聴講のお申込みは「多摩森林科学園ホームページ」を御覧ください。
(<http://www.ffpri.affrc.go.jp/tmk/>)



多摩の森で森林浴

樹木園

常設展示 多摩の森の生き物たち

多摩の森の植物やそこに住む動物のくらしを紹介しています。

常設展示 サクラ保存林へようこそ

春は250種類の桜でにぎわう多摩の森。桜にまつわる豆知識を紹介。

解説員と歩くガイドツアー（平日のみ）（当日確認）

解説員と園内を散策してみませんか？平日10時までに森の科学館入口にお集まりください。約1時間半のコースでご案内いたします。（都合により実施できない日がありますので、当日森の科学館でご確認ください。）

森林講座（事前申込み必要）

6月から3月までの毎月1回、森林総合研究所の研究をわかりやすくお話しする講座が開かれています。例えば、9月は **希少植物を守るためのあんなことこんなこと**、11月は **森林はどのように災害を防ぐのか**。

野外森林教室（事前申込み必要）

6月30日（土） **野山の植物を見てみよう-初心者のための観察入門-**
11月30日（金） **夜のムササビを観察しよう**

※森林講座と野外森林教室のお申込は「多摩森林科学園ホームページ」を御覧ください（<http://www.ffpri.affrc.go.jp/tmk/>）。



森の科学館



森の科学館



昆虫スポット



樹木園



ムササビスポット



樹木園案内

●入園案内

開園時間：午前9時30分～午後3時30分（午後4時閉門）
（4月は午前9時開門）
休園日：毎週月曜日（月曜が祝日の場合その翌日）
（3・4月は無休）



駐車場はありませんので電車と徒歩でおいでください。

●入園料

大人300円、子供50円
（4月のみ各100円増し）

●最寄駅

JR中央線高尾駅／京王線高尾駅
北口から徒歩10分

※園内は軽いハイキングの服装がおすすめです。

お問い合わせ

独立行政法人森林総合研究所
多摩森林科学園

TEL：042-661-0200

（お客様専用）

<http://www.ffpri.affrc.go.jp/tmk/>



多摩森林科学園

高尾駅北口から徒歩10分

サクラ保存林

美しい八重桜を
楽しみましょう

●八重桜‘はるか’の原木を公開

「八重の桜」主演の綾瀬はるかさんが
名付け親となった新しい八重桜を紹介します。

●サクラ保存林で見る八重桜

江戸時代以前から継承されてきた
多くの種類の八重桜を見ることができます。

●八重桜写真展

各地の美しい八重桜とその風景を紹介します。

2013年3月初旬～5月初旬開催

森林総合研究所多摩森林科学園のサクラ保存林では、 様々な桜を3月から4月下旬まで楽しむことができます

桜の遺伝資源を保全するために、伝統的な栽培品種や全国の名木などから
接ぎ木で増殖した約600系統、1,300本の桜が植栽されています。
主な系統の開花情報は多摩森林科学園のホームページをご覧ください。

八重桜‘はるか’を公開

多摩森林科学園で育成した新しい八重桜は、
昨年福島県に寄贈され、綾瀬はるかさんが
はるかかなた未来に羽ばたく願いを込めて、
命名しました。森の科学館前で見られます。



サクラ保存林で見る 八重桜

サクラ保存林を散策しながら見ることができる
‘普賢象’、‘楊貴妃’、‘御車返’、‘朱雀’ など
荒川堤に由来する24種類の八重桜の
特徴を紹介した「八重桜マップ」をお配りします。



八重桜写真展

寺澤秀治氏と中西一登氏の写真により、
北海道松前の血脈桜や
京都仁和寺の御室有明など、
各地の美しい八重桜とその風景を紹介します。
森の科学館の2階ホールどうぞ。



‘一葉’



‘御衣黄’



‘御車返’



‘江戸’



‘天の川’

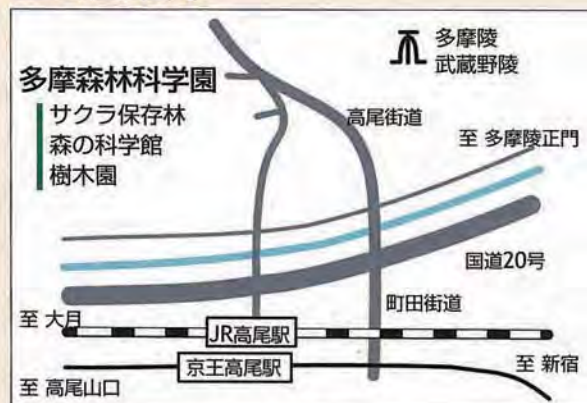


‘普賢象’

新緑の季節も森の楽しみは続きます

- 森の案内人による園内ガイドツアー：4月は休止して5月から再開
平日の午前10時から約2時間散策しながら季節の自然を紹介。予約なし。当日集合。
- 森林教室：5月から開始
雑木林の再生をテーマに年数回を予定。事前申込。
- 森林講座：6月から開始
テーマは月替わりで毎月1回。事前申込。毎回1ヶ月前から参加者を募集。
- 詳細は4月以降にホームページをご覧ください。

■入園案内



●入園時間

午前9時30分～午後3時30分
午後4時閉門
(4月は午前9時開園)

休園日：毎週月曜日
(3・4月は無休)
(月曜が祝日の場合その翌日)

●入園料

4月 大人400円・子供150円
他の月 大人300円・子供 50円

※駐車場はありませんので
電車と徒歩でおいでください。

●最寄駅

JR中央線高尾駅／京王線高尾駅
北口から徒歩10分

※園内は軽いハイキングの服装が
おすすめです。

お問い合わせ

独立行政法人森林総合研究所
多摩森林科学園

TEL：042-661-0200
(お客様専用)

<http://www.ffpri.affrc.go.jp/tmk/>

公開シンポジウム

美しい日本の桜を 未来に伝える

— 系統保全の現状と新展開 —

平成25年2月16日(土)
13時～17時(開場12時)

参加費無料

(定員300名／事前にお申し込みください)

日本の桜は、10種の野生の桜のほか、多数の美しい栽培品種が育成されてきました。伝統的な栽培品種の分類については、長い歴史の中で様々な混乱が生じていますが、近年、遺伝子情報と形態観察に基づく研究で、新たな進展が見られます。このシンポジウムでは、日本の桜の歴史と最新の研究成果を紹介し、未来に伝える系統保全を考える機会にしたいと思います。

■第1部 サクラ栽培品種の歴史と発展

- 野生種から栽培品種への道 (池谷祐幸・農研機構)
- 竹中要博士と遺伝研の桜 (森脇和郎・理研筑波研究所)
- 北陸地方の栽培品種 (大原隆明・富山県中央植物園)
- 園芸品種の増殖と管理の問題点(田中秀明・日本花の会)

■第2部 遺伝子情報とサクラの系統保全

- サクラの病害と系統 (長谷川絵里・森林総研)
- DNAから見た栽培品種の再分類(加藤珠理・森林総研)
- 組織培養による増殖とDNA識別の事例 (石尾将吾・住友林業)
- DNA識別に基づく栽培個体の系統保存 (勝木俊雄・森林総研)
- 染井吉野とサクラ属野生種の交雑とその要因 (向井譲・岐阜大学)

■第3部 今後の系統保全はどうあるべきか

- パネルディスカッション



場所：
木材会館7F
ひのきホール

東京都江東区
新木場1-18-8

JR京葉線／
東京メトロ有楽町線／りんかい線
「新木場駅」下車 徒歩3分

- 桜に関心がある一般の方向けの講演会です。
- 参加者には、多摩森林科学園発行「新しいサクラ保存林ガイド」(カラーB5版、40ページ、2013年2月発行予定)を呈呈します。
- 電子メールで(kouhotama@ffpri.affrc.go.jp宛)事前にお申し込みください。先着順300名。空きがあれば当日参加も可能ですが、事前申込が優先となります。
- 詳しくは多摩森林科学園のホームページをご覧ください。
- 問合せは、042-661-1121(多摩森林科学園)へ。

主催：独立行政法人
森林総合研究所 多摩森林科学園

はじめに

多摩森林科学園のサクラ保存林には、伝統的な栽培品種および各地の名木などのクローンが約 600 ライン収集され、総数約1300本のサクラが植栽されています。このパンフレットでは、それらのうち主要な八重の桜に焦点をあてて紹介しています。

八重桜は一般に染井吉野よりも開花が遅く、多摩森林科学園で4月下旬までの長い期間サクラを楽しむことができるのは、八重桜が比較的多く植栽されていることにもよります。地図を片手に、多様な美しい八重桜をお楽しみください。

多摩森林科学園長
吉丸 博志

多摩森林科学園における

サクラ保存の取り組み

科学園のサクラ保存林は、農林省の桜対策事業の一環として、公害や老化によって衰退するサクラを保存することを目的に1966年度に設置されました。以後、古くからの栽培品種や各地の名木などさまざまな桜が導入され、保存・研究が行われてきました。

桜の保存は、接木や挿し木といった方法で行われます。原木から芽や枝を採取し、他の木の根株に接いだり（接木）、枝から根を出させる（挿し木）ことで個体を増殖する方法で、原木と同じ遺伝子を持つ個体（クローン）の増殖を行います。サクラ保存林は、こうした接木で増殖したサクラを後世まで伝えることが目的です。したがって、どのような原木から増殖したのか、その由来がきわめて重要です。そこで科学園では、同じ由来を持つサクラを一単位とし栽培ラインとして管理しています。このパンフレットや保存林の表示板には、この栽培ライン名を表示しています。なお、参考情報として、生物の基本単位である種名や栽培品種名、導入元などについても表示しています。



‘はるか’

多摩森林科学園のサクラ保存林にある‘思川’の実生を1999年に発芽させ選抜した栽培品種。2004年に八重咲きの花が確認された。花粉親はサトザクラでマメザクラ・ヤマザクラ・エドヒガン・オオシマザクラ4種の関与が推定されている。花弁は基部が白色に近い淡紅色で14～19枚の八重咲き。萼筒や葉柄の開出毛が特徴。開花期は‘染井吉野’より遅く、4月中旬頃。

森林総合研究所から2012年12月に種苗法に基づく農林水産省の品種登録の出願をおこなった。

独立行政法人 森林総合研究所 多摩森林科学園

〒193-0843 東京都八王子市甘里町1833-81

電話:042-661-0200

<http://www.ffpri.affrc.go.jp/tmk/>

e-mail: kouhotama@ffpri.affrc.go.jp

製作:多摩森林科学園 岩本宏二郎 勝木 俊雄

発行:2013年3月14日

桜めぐりマップ

サクラ保存林で見る

八重桜



独立行政法人 森林総合研究所
多摩森林科学園

八重桜解説

①栽培ライン名：原則的に導入元と導入時の名称を栽培ライン名としています。ただし、明らかに間違った名称で導入された場合や、原木の現地名と大きく異なっている場合などは変更した名称を用いています。②種名：各栽培ラインの種名を示しています。変種は区別していません。雑種は識別が可能な種について示しています。③栽培品種名：栽培品種名がある場合に示しています。栽培品種名はない場合も示しています。④導入元：導入元の組織名・地名・人名等と市町村を示しています。⑤解説：各ラインに対する簡単な解説をしていきます。⑥開花期：開花期の目安を早春・盛春・晩春の3段階と秋咲きについて示しています。

栽培ラインの解説と写真は、案内図の標識杭番号順に並べています。

①安行の松月 ②オオシマザクラ ③‘松月’ ④安行見本園 埼玉県川口市 ⑤荒川堤にあった松月が伝わったと考えられる ‘松月’の花は淡紅色で八重咲き 花弁の先に細かな切れ込みが多く萼片に鋸歯があることが特徴 若芽の色は緑色 京都の置麦桜も同じ栽培品種 ⑥晩春

①安行の楊貴妃 ②ヤマザクラ×オオシマザクラ×カスミザクラ ③‘楊貴妃’ ④安行見本園 埼玉県川口市 ⑤荒川堤にあった楊貴妃が伝わったと考えられる ‘楊貴妃’の花は淡紅色で八重咲き ‘江戸’によく似て居同される場合も多いが、萼片はより細い披針形で正常な雌しべが多い ⑥晩春

①安行の普賢象 ②ヤマザクラ×オオシマザクラ ③‘普賢象’ ④安行見本園 埼玉県川口市 ⑤荒川堤にあった普賢象が伝わったと考えられる 古くは白普賢と称され、紅普賢（関山）と対比されていたと思われる 花は淡紅色で八重咲き 雌しべが薬化することと萼片に鋸歯があることが特徴 ⑥晩春

①御祓（みそぎ）②ヤマザクラ×オオシマザクラ ③‘御衣黄’ ④遺伝学研究所 静岡県三島市 ⑤遺伝研より御祓として導入 遺伝研には現存しておらず、以前の導入履歴は不明 ‘御衣黄’の花は緑色で八重咲き 花弁に明らかな濃緑色部がある点で‘鬱金’と区別されるが、中間的なものもある ⑥晩春

①安行の福祿寿 ②オオシマザクラ ③‘福祿寿’ ④安行見本園 埼玉県川口市 ⑤荒川堤にあった福祿寿が伝わったと考えられる ‘福祿寿’の花は淡紅紫色で八重咲き 花弁は質厚でねじれるように曲がる 萼片は長卵状三角形で全縁 八重曜として栽培されている‘福祿寿’もある ⑥晩春

①安行の大提灯 ②ヤマザクラ×オオシマザクラ ③‘有明’ ④安行見本園 埼玉県川口市 ⑤荒川堤にあった大提灯が伝わったと考えられる 荒川堤の大提灯と千里香、有明は区別せずすべて栽培品種としては‘有明’にまとめるべきと考えられる 花は微淡紅色で半八重咲き ⑥晩春

①安行の白雪 ②マメザクラ×ヤマザクラ×オオシマザクラ ③‘白雪’ ④安行見本園 埼玉県川口市 ⑤荒川堤にあった白雪が伝わったと考えられる 花は白色で一重咲き 花弁が円形でしわがない点と小花柄に開出毛がある点が特徴 荒川堤で三好学が発見・命名したが以前から別名称で栽培されていたと思われる ⑥晩春

①安行の鬱金 ②ヤマザクラ×オオシマザクラ ③‘鬱金’ ④安行見本園 埼玉県川口市 ⑤荒川堤にあった鬱金が伝わったと考えられる 花は淡黄色で八重咲き 荒川堤では当初、浅黄の名称が記録にあるが途中から鬱金に替わっている 鬱金と浅黄は異なるという意見もあるが、異名扱いとすべきと考えられる ⑥晩春

①安行の白妙 ②オオシマザクラ ③‘白妙’ ④安行見本園 埼玉県川口市 ⑤荒川堤にあった白妙が伝わったと考えられる 花は白色で八重咲き 緑色の若芽と鋸歯がある萼片が特徴 荒川堤にはよく似た雨宿があり、同一栽培品種と思われるが、サクラ保存林には荒川堤由来の雨宿がなく、検証できない ⑥晩春

①安行の江戸 ②オオシマザクラ×カスミザクラ ③‘江戸’ ④安行見本園 埼玉県川口市 ⑤荒川堤にあった江戸が伝わったと考えられる 花は淡紅色で八重咲き ‘楊貴妃’によく似て混同されるが、異なるクローン 荒川堤にあった東錦や糸括、八重紅虎の尾はすべて栽培品種としては‘江戸’にまとめられると考えられる ⑥晩春

①嵐山 ②オオシマザクラ ③‘嵐山’ ④安行見本園 埼玉県川口市 ⑤荒川堤にあった嵐山が伝わったと考えられる 花は微淡紅色で一重咲きだが、花弁数は6・7枚になることもある 一重咲きのサトザクラの中では花弁が円形で大きいことと萼片に明瞭な鋸歯があることで区別される ⑥晩春

①鷺の尾 ②ヤマザクラ×オオシマザクラ ③‘鷺の尾’ ④安行見本園 埼玉県川口市 ⑤荒川堤にあった鷺の尾が伝わったと考えられる 花は白色で一重咲き 旗弁が生じることもある 花弁は円形で長さ2cmほどでしわ状のうねりがある ‘太白’に似ているが花弁はより小さい ⑥晩春

①安行の上句 ②ヤマザクラ×オオシマザクラ ③‘上句’ ④安行見本園 埼玉県川口市 ⑤荒川堤にあった上句が伝わったと考えられる 花は白色で八重咲き 花に強い芳香がある 同じ芳香がある‘駿河台句’などと混同されることもあるが、花弁の数と若芽が緑色である点で区別される ⑥晩春

①佐野の紫桜 ②ヤマザクラ×オオヤマザクラ×オオシマザクラ ③‘紫桜’ ④佐野園 京都府京都市 ⑤佐野園から紫桜として導入 以前の導入履歴は不明 花は紅紫色で一重咲き 荒川堤にはよく似た金剛山があり、同一栽培品種と思われるが、サクラ保存林には荒川堤由来の紫桜と金剛山がなく、検証できない ⑥晩春

①京都の桐ヶ谷 ②ヤマザクラ×オオシマザクラ ③‘御車返’ ④京都植物園 京都府京都市 ⑤佐野園が仁和寺から桐ヶ谷として導入したものに由来すると考えられるが詳細は不明 花は淡紅紫色で半八重咲き 鎌倉の桐ヶ谷にあったという話から桐ヶ谷とも呼ばれる栽培品種としては‘御車返’ ⑥晩春

①八柱の紅普賢 ②ヤマザクラ×オオシマザクラ ③‘関山’ ④八柱霊園 千葉県松戸市 ⑤紅普賢として導入されたが栽培品種としては‘関山’ 花は濃紅紫色で八重咲き 開花時の若芽も濃紅紫色普賢象は室町時代から知られる名称で江戸時代には様々なサクラにつけられていた ⑥晩春

①神代の駿河台句 ②ヤマザクラ×オオシマザクラ ③‘駿河台句’ ④神代植物公園 東京都調布市 ⑤神代植物公園以前の履歴は不明 花は白色で半八重咲き 花に強い芳香がある 荒川堤にあった御座の間句や滝句とよくにているが未検証 神代周辺は東京都の苗木生産の中心地であった ⑥晩春

①神代の芝山 ②マメザクラ×エドヒガン×オオシマザクラ ③‘芝山’ ④神代植物公園 東京都調布市 ⑤神代以前の履歴は不明 芝山として導入されたが、荒川堤の薄曇と同一と考えられる 芝山との関係は検討が必要 花は白色で一重咲き 小花柄の開出毛と花弁のしわ状のうねりが特徴 ⑥晩春

①安行の一葉 ②ヤマザクラ×オオシマザクラ ③‘一葉’ ④安行見本園 埼玉県川口市 ⑤荒川堤にあった一葉が伝わったと考えられる 花は淡紅色で八重咲き 和名は1本の雌しべが薬化していることに由来するが、2本の場合もある 京都で栽培されている置麦桜は‘一葉’ ⑥晩春

①白山高砂 ②チヨウジザクラ×ヤマザクラ×オオシマザクラ×カスミザクラ ③‘高砂’ ④京都植物園 京都府京都市 ⑤京都植物園以前の履歴は不明 花は淡紅色で八重咲き 萼筒や葉面に密毛があることが特徴 荒川堤にあった南殿も‘高砂’にまとめられる ⑥晩春

①神代の天の川 ②ヤマザクラ×オオシマザクラ ③‘天の川’ ④神代植物公園 東京都調布市 ⑤神代以前の履歴は不明 花は淡紅色で八重咲き 枝が横に広がらずに上向きに伸びることが特徴 サクラの花は下向きに咲くものが多いが、‘天の川’は花も上向きに咲く ⑥晩春

①七沢の猩々 ②ヤマザクラ×オオシマザクラ③‘麒麟’ ④神奈川県林業試験場 神奈川県厚木市 ⑤試験場以前の履歴は不明 猩々として導入されたが明らかな間違い 花は濃紅紫色で八重咲き ‘関山’ににているが萼片に明瞭な鋸歯がある ⑥晩春

①白子不断桜 ②ヤマザクラ×オオシマザクラ ③‘不断桜’ ④子安観音寺 三重県鈴鹿市立寺家町 ⑤不断桜は江戸時代から有名な名木で白子の子安観音寺に原木がある 荒川堤でも白子に由来するものがあつたと思われる 花は白色で一重咲きで特徴はないが、秋から春まで咲き続ける ⑥早春・秋

①佐野の朱雀 ②ヤマザクラ×オオシマザクラ ③‘朱雀’ ④佐野園 京都府京都市 ⑤佐野園が興津試験場経由で荒川堤由来のものを入手したと思われる 花は淡紅色で八重咲き 長さ約9mmのややくびれた細長い萼筒が特徴 雪月花として栽培されている‘朱雀’もある ⑥晩春

多摩森林科学園サクラ保存林
八重桜 植栽箇所案内図



・図中の数字は、歩道沿いに設置された標識杭の番号を示しています。
・本地図の地形データは国際航業株式会社から提供を受けたものを
利用しています

八重桜

荒川堤の桜

野生のサクラの花の花弁数はふつうすべて5枚で、一重です。これに対して花弁数が10枚を超えるような花を八重、6-10枚の花を半八重とといいます。八重咲きのサクラはごく稀に野生でも見つかりますので、突然変異で生じると考えられています。平安時代にも八重桜の記録があり、こうした変わった花をもつサクラは古くから珍重されてきました。八重咲きの性質は遺伝しますが、子供も必ず八重咲きになるとは限りません。そこで、八重の花をもつサクラを増やそうとすると、接ぎ木や株分けなどでクローン増殖する必要があります。こうしてクローン増殖されたものが栽培品種として扱われることになります。また子供の中には親よりもさらに花弁数が多い花をもつものも生まれます。これ選抜して増殖すると新しい栽培品種となります。現在栽培されている‘普賢象’や‘関山’などの八重桜の多くは、江戸時代にこうして生まれたものだと考えられています。

江戸時代に生まれた八重咲きのサクラの栽培品種は、江戸では大名屋敷の庭園を中心に育てられていました。そのため、明治時代になると手入れが行き届かなくなり、消えた種類もありました。そこで江北村（現在の東京都足立区）の村長であった清水謙吾はこうしたサクラを集めて保存することを計画しました。苗木を駒込の植木屋の高木孫右衛門などに依頼し、78種類8,000本の桜が1886年に荒川堤に植栽されました。このような場所は他になく、五色の桜と呼ばれ、大正から昭和初期には桜の名所となりました。学術的にも貴重で、研究材料として多く利用されました。現在に伝わる栽培品種の多くは荒川堤から広まったと考えられます。荒川堤にあったサクラは八重咲きだけではなく、一重咲きの栽培品種も含まれますが、八重桜について語るうえでは欠かすけません。そこで、このパンフレットでは一重咲きのサクラも含めて荒川堤にあったと考えられる桜を紹介しています。



サクラ保存林の八重桜

サクラ保存林には全国から集められた名木や栽培品種など様々なサクラが保存されています。その中でもっとも重要なグループが安行（現在の埼玉県川口市）から導入された栽培品種です。学術的にも貴重であった荒川堤のサクラのコレクションは、残念ながら昭和時代に一度すべて消失しました。しかし、安行の植木屋であった小清水亀之介などの尽力により荒川堤のコレクションが安行で栽培されていきました。サクラ保存林は小清水が保存した荒川堤に由来するサクラを保存しているのです。2012年現在、サクラ保存林には31栽培ライン、98本の安行に由来するサクラが保存されています。

主な用語

萼片(がくへん)：花を構成する器官のなかで花弁の外側につく花葉を萼片という サクラの場合、萼片は萼筒と萼裂片に区別され、解説部で用いている萼片は正確には萼裂片となる

萼筒(がくとう)：萼片が融合して筒になっている部分 花弁(かべん)：花を構成する器官のひとつ 花びら サクラの場合、通常は5枚が放射状につく

旗弁(きべん)：基部は糸状に細長くのび先端部は旗状の花弁 サクラの場合、花弁と雄しべの中間的なもの 鋸歯(きょし)：葉や萼裂片の縁にある切れ込み

サトザクラ：人為的に栽培されているサクラの栽培品種グループ オオシマザクラが母体となっているが、野生のオオシマザクラの変異より多様で、ヤマザクラやオオヤマザクラなどの種間雑種となっている場合が多い

全縁(ぜんえん)：葉などの縁に切れ込みがないこと 葉化雌しべ(ようかめしべ)：雌しべが異常に発達し、葉状になったもの 八重咲きのサクラにはしばしば見られる